

「必ず最後まで聞ききる」

目良氏米国から来伯講演

「数世紀経つても悪影響残す」

「この裁判は米国最高裁まで行く可能性がある。5年、10年の闘いになるだろうが、必ず最後までやる。ご支援をお願いします。米州カリフォルニア州(以後、加州)で韓国系コミュニティが設置した慰安婦像を撤去するよう2月20日に市を訴えた日本人グループ「歴史の真実を求める世界連合会」の目良浩一(めらこういち)会長の講演が、先週末日午後、聖市の南東部軍合同司令部講堂で行われ、計120人が熱心に聞き入った。18日は約70人、19日は約50人が出席した。ブラジル日系協会、ブラジル日本研究協会共催。

目良さんは加州サンタモニカ在住。元ハーバード大学経済学部助教授。講演は「戦後日本の変遷を考察する」をテーマに、前半は明治維新以来の米国、中国や韓国との関係を再見す内容だった。後半は慰安婦像裁判が中心になった。「日本軍が戦中に強制的に慰安婦を徴用したことを認めるのは、日本人は残酷で、平気で女性を辱める人種という内容。このように誤った印象が国際的に定着すると、数世紀にわたって悪影響を与える。今のうちにちゃんと反論しないと大変なことになる」と力を込めた。

目良さんの調査によれば、1944年時の米軍極秘資料にも「単なる売春婦で、軍隊の後を追う女性群である」と書かれているという。慰安婦記念碑は10年10月に米国ニュージャージー州パリスーズパークに建てられ、現在までに8カ所、慰安婦像でなく「慰安婦像」の建立は、



「後世に悪影響を残す」と語る目良さん

13年7月の加州グリーンデル市が最初で、それに対し、地元日本人が立ち上がった。93年時に河野洋平官房長官が記者会見で慰安婦制度によって強制徴用があったことを認め、宮沢喜一総理が謝罪しているために事実関係を巡る裁判ができて、これは外交問題であり、外交問題は連邦政府の権限であり、地方自治体である市が、それに関与することは米国の憲法に違反する」との提訴が連邦裁判所に提出された。市は《言論の自由の範囲内》と反論している状況だ。

ただし、目良さんによれば8月4日に第一審で《原告が憲法違反の便益を受ける資格がない》の、奇妙な理由で棄却となり、この9月に連邦裁判所の上級裁判所に控訴した。同時に《慰安婦像に付随した金属板に書かれた文書が市議会の承認を得られていない》ことや市が日系の人々に差別的な扱いをした》として、州裁判所にも提訴した。

目良さんは「日本国と日本人を貶める物として、日本人の名誉のために、放置しておくことはできない。慰安婦問題をアメリカやその他の国に持ち出して日本人や日本を非難することは、日本の名誉にかけて許すことができない」と訴えた。オーストラリア、シンガポール、カナダなどでも同様の問題が韓国系の人々によって起こされているという。

加州グリーンデル市では韓国系団体が、同市議会議員に働きかけた結果、慰安婦像が設置されているという。

ブラジル日系協会のブラジルの会長は「日本の歴史や文化を誇ることは我々子孫の義務」とも、当地の日系社会にとっても重要な話だ」と話した。京野会長は「誰かが動かし、呼びかけの動きを、躊躇に亜国やハワイ、ポリアニア、ベルギー、オーストラリア、シンガポールにも広げよう」という。目良さん16日に来伯し、ク

危うく「日帝侵略」 実はクリチーバ

危うく「日帝侵略」 実はクリチーバで8月に

慰安婦像にまつわる動きは伯国でも他人事ではない。金曜情報サービス



「この裁判は米国最高裁まで行く可能性がある。5年、10年の闘いになるだろうが、必ず最後までやる。ご支援をお願いします。米州カリフォルニア州(以後、加州)で韓国系コミュニティが設置した慰安婦像を撤去するよう2月20日に市を訴えた日本人グループ「歴史の真実を求める世界連合会」の目良浩一(めらこういち)会長の講演が、先週末日午後、聖市の南東部軍合同司令部講堂で行われ、計120人が熱心に聞き入った。18日は約70人、19日は約50人が出席した。ブラジル日系協会、ブラジル日本研究協会共催。

目良さんは加州サンタモニカ在住。元ハーバード大学経済学部助教授。講演は「戦後日本の変遷を考察する」をテーマに、前半は明治維新以来の米国、中国や韓国との関係を再見す内容だった。後半は慰安婦像裁判が中心になった。「日本軍が戦中に強制的に慰安婦を徴用したことを認めるのは、日本人は残酷で、平気で女性を辱める人種という内容。このように誤った印象が国際的に定着すると、数世紀にわたって悪影響を与える。今のうちにちゃんと反論しないと大変なことになる」と力を込めた。

「サチチナ」ブラジル南部の都市、クリチーバで8月2日から4日にかけて開催が予定されていた「日帝侵略写真展」が延期されたことが分かった。複数の関係者は「ブラジルは世界最大規模の在外日本人居住地として移民の歴史と約180万人にのぼる日本人社会が根深く形成されているため、反対が大きかった」と説明した。

関係者は「韓国の偉大な子孫として、忘却されつつある日本軍国主義の歴史に警鐘を鳴らすべく、不屈の精神と情熱で『日帝侵略写真展』を必ず推進するつもりだ」と述べた。(以下省略)

「サチチナ」ブラジルの都市、クリチーバで8月2日から4日にかけて開催が予定されていた「日帝侵略写真展」が延期されたことが分かった。複数の関係者は「ブラジルは世界最大規模の在外日本人居住地として移民の歴史と約180万人にのぼる日本人社会が根深く形成されているため、反対が大きかった」と説明した。

目良さん/車窓から見えるスラム街